



# 中黒瀬ふれあい農業祭



# 中黒瀬ふれあいマップ

このマップは、平成16年3月31日に当時の黒瀬町文化財保護委員会が編集したものをもとに中黒瀬地区内の名所・旧跡を再編集したものです。  
 “歩く門には福来る”を合言葉にウォーキングを兼ねた名所旧跡巡りに役立ててください。  
 中黒瀬を新たに知ることや新たな発見は、老若男女を問わず誰もが味わうことができる「感動」や「喜び」につながるものではないでしょうか。

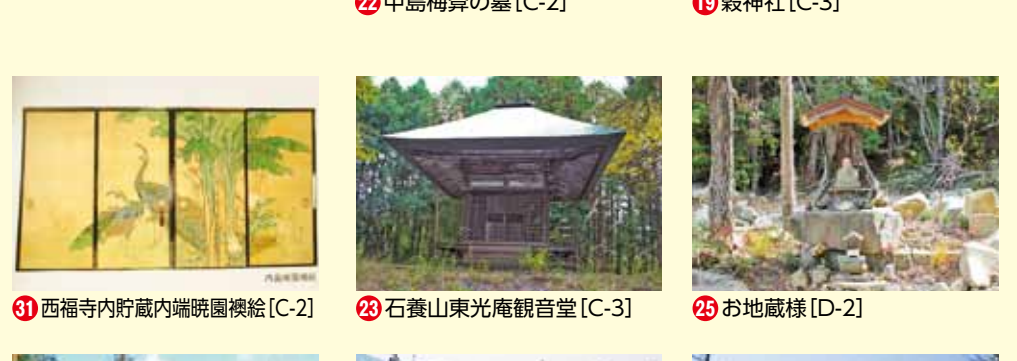
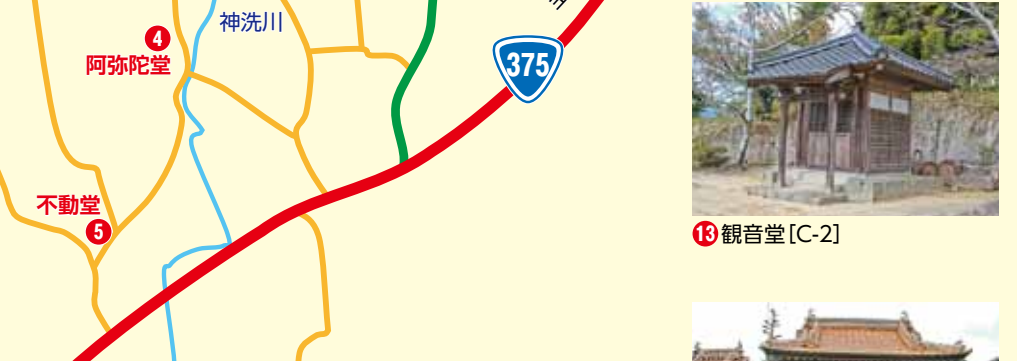
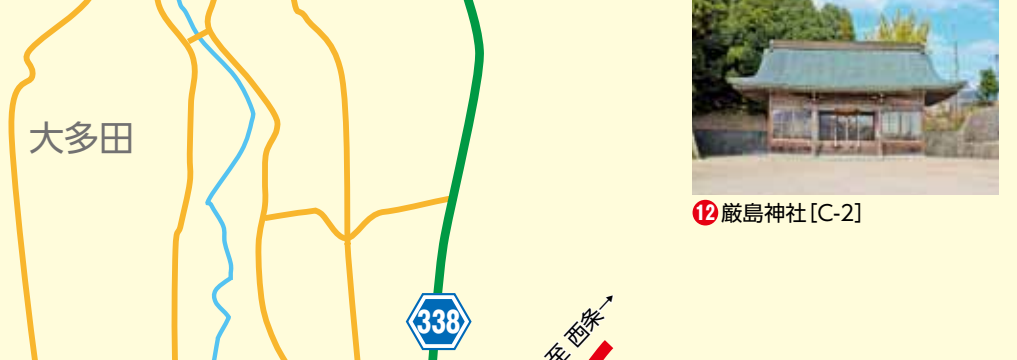


お問い合わせ先  
 東広島市黒瀬町丸山1333番地  
 東広島市役所黒瀬支所南館1F  
 中黒瀬住民自治協議会  
 ☎0823-27-7727  
 令和3年12月  
 編集 中黒瀬ふれあいマップ作成委員会  
 発行 中黒瀬住民自治協議会

- |  |  |   |  |  |  |   |  |   |   |   |  |
|--|--|---|--|--|--|---|--|---|---|---|--|
| <p><b>1</b> <b>八幡神社</b> (大多田)<br/>                 祭神：帯中津日子命、品陀和気命、息長帯白女命<br/>                 大多田の鎮守で永享3年(1431)に豊前国宇佐八幡宮(今の大分県宇佐市)から勧請したと伝えられています。現在の本殿は大正5年(1916)に再建されたものです。御神体は直径1尺(約30cm)もある懸仏で旧黒瀬町指定の重要文化財となっています。</p>                        | <p><b>4</b> <b>阿弥陀堂</b> (大多田)<br/>                 江戸時代の大多田村には薬師堂と地蔵堂の二つの堂がありました。現在は、阿弥陀堂があり、薬師堂と地蔵堂にあった仏像を安置しています。この阿弥陀堂は、明治18年(1885)に楳原の西福寺の出張所として設けられたものです。</p>               | <p><b>7</b> <b>龍王山公園</b> (丸山)<br/>                 標高240mの龍王山は、頂上から黒瀬町の田園風景を見渡すことができます。黒瀬町時代から山のほとんどもを貫かし西側の森林公園、東側を都市公園(平成29年12月完成)として整備されています。</p>              | <p><b>10</b> <b>梅檀の木</b> (丸山)<br/>                 現在の中黒瀬保育所・児童館・中央公園の中心に2本の梅檀の木があります。この場所は中黒瀬小学校跡地で当時の梅檀の木を中心に運動会などが展開されていました。今では、中黒瀬のシンボルとなっています。</p>  | <p><b>13</b> <b>観音堂</b> (楳原)<br/>                 歴史的背景不詳<br/>                 楳原神社の西の小高い丘に位置し、楳原地区が望めるところにあります。古くから地域の財産として大切にされています。</p>   | <p><b>16</b> <b>笹野川お地蔵様</b> (楳原)<br/>                 歴史的背景不詳<br/>                 古くから兼広地域のお守りとして大切にされています。</p>   | <p><b>19</b> <b>たなつ殿神社</b> (川角)<br/>                 祭神：宇気母尊神 大山藏神<br/>                 江戸時代には、荒神と呼ばれていました。</p>   | <p><b>22</b> <b>中島梅葬の墓</b> (菅田)<br/>                 中島梅葬(1801～1869)祖は備前中島藩士にあって播州明石で禅僧として暮らし、縁あって菅田村に住まいし、読書・詩・習字に長け、特に鉄筆にて手習所を越えた字問所なる私塾「養成館」を天神原に開いた。門徒は男100人・女15人といわれた。このことは30余年教授の後、梅葬没後門徒たちが建立碑を相謀り回廊路を宇都宮黙齋翁に請ひ撰文墓所に銘じ建立したことから伺えます。</p> | <p><b>25</b> <b>お地蔵様</b> (上保田)<br/>                 歴史的背景不詳<br/>                 古くから上保田地域のお守りとして大切にされています。</p>   | <p><b>28</b> <b>海老根神社</b> (市飯田)<br/>                 祭神：宇迦御魂神 大山津見神 上津姫神<br/>                 江戸時代には山を守る小祠でした。市飯田地区の鎮守で現在の本殿は、昭和11年(1936)に建立されたものです。</p>  | <p><b>31</b> <b>西福寺貯蔵文化財</b><br/>                 内島眺園絵巻<br/>                 内島眺園は、明治7年(1874)5月18日旧楳原村5番屋敷(現 楳原162番地)内島理助の三男(現在地家)として生まれ、大正6年(1917)2月7日、常林寺(広島市三川町)で42歳の生涯を終えています。本名は獲造、暁園(別名春耕)は号。21歳の時、京都の竹内栖鳳に入門、後に広島で活躍しました。</p> | <p><b>34</b> <b>市飯田 洋国団地上流</b><br/>                 H30災害復旧 砂防堰堤<br/>                 平成30年7月6日～7日の梅雨前線豪雨により黒瀬川南側山腹で未曾有の土石流が多発しました。この土石流で数件の家屋、団地内道路、河川が被災しました。当地は砂防指定を受けた河川のため国土交通省所管事業として施工(令和元年～2年)されました。</p> |
| <p><b>2</b> <b>稲荷神社</b> (大多田 八幡神社西)<br/>                 歴史的背景不詳<br/>                 八幡神社の西の山腹に位置し、八幡神社とともに古くから大切にされています。</p>   | <p><b>5</b> <b>不動堂</b> (丸山)<br/>                 江戸時代の丸山村には観音堂、龍王堂、不動堂という三つの堂がありました。現在は、不動明王を祀る不動堂が残るだけです。不動堂は金剛山円通寺という山号を持ち、応永年間(1394～1427)の疫病流行の際に建立されたと伝えられています。</p>          | <p><b>8</b> <b>桂林悟澄墓地</b> (丸山 龍王山南面)<br/>                 栢高榎塾の北(龍王山内) 明治6年丸山田版家没す。明治7年(1917)に広島市で亡くなるまで、黒瀬を中心に画業を続け多くの絵画を残しています。代表作として「西福寺の襖絵」「平賀家の襖絵」があります。</p> | <p><b>11</b> <b>内島眺園の墓</b> (楳原)<br/>                 眺園は明治7年(1874)に楳原で生まれました。京都で日本画を学び将来を期待されましたが、病気のため帰郷しました。大正6年(1917)に広島市で亡くなるまで、黒瀬を中心に画業を続け多くの絵画を残しています。代表作として「西福寺の襖絵」「平賀家の襖絵」があります。</p>   | <p><b>14</b> <b>西福寺</b> (楳原)<br/>                 示現山西福寺という浄土真宗の寺院です。寺伝には津江の小田山にあり廃寺となった本照寺の流れをくむと書かれています。本照寺の本尊にあつたと思われる阿弥陀如来像が伝えられています。また兼広には西福寺跡と言われている場所があり現在地に移る前の故地とも推測できます。本堂の襖絵「孔雀と芭蕉」と「玄奘西域行」は内島眺園の代表作で旧黒瀬町指定の重要文化財となっています。</p> | <p><b>17</b> <b>イボ宮様</b> (切田)<br/>                 歴史的背景不詳<br/>                 切田地域の財産として古くから大切にされています。</p>   | <p><b>20</b> <b>天満神社</b> (菅田)<br/>                 祭神：菅原道真<br/>                 江戸時代には、天神と呼ばれていました。慶長年間(1596～1614)に菅田孫の弥九郎が筑前(今の福岡県)の太宰府天満宮より勧請したと伝えられています。広町長浜 石泉先生の表額があります。</p>   | <p><b>23</b> <b>石養山東光庵観音堂</b> (菅田)<br/>                 山中から掘り出された観音像を安置するために建立された辻堂です。観音像の由来を記した縁起書には、廃寺となった石養山東光庵の本尊であったと述べられています。観音堂の建立年代は、文政ごろ(19世紀初め)と考えられます。</p>   | <p><b>26</b> <b>成蹊園跡</b> (上保田) &lt;版・貫・井牧場跡&gt;<br/>                 荒神社の裏、東半分が牧草、西半分が事務所跡の石積みが残る。大正の初め大多田田版秀雄、上保田平賀進夫、同所阿井棟の三氏により乳牛を飼育。代表格である平賀氏の小岩井牧場を見学にて創業の動機となる。大正8年この共同企業は自然消滅しました。</p> | <p><b>29</b> <b>海老根池竣工記念碑</b><br/>                 明治40年ころ市飯田区上条の水田耕作を守る「ため池」として多数の人力(機械力なし)と互いの助まし合い(太鼓たたき等)で堤防(長さ100m幅30m)を築き施工されました。地区外の人々からも多大の施工寄付(援助)を受けています。この環境は、農水省所管の治山事業として施工(令和元年～2年)されました。</p> | <p><b>32</b> <b>菅原道真公と往還道</b> (楳原～菅田～川角)<br/>                 道真公(天神さま)は京の都から九州(大宰府)に流れていける途中、天神さまが黒瀬郷をお通りになり、「お何と美しい風光である」と足を止められ滞在された由来から「菅田」や「小学で「天神原」という地名があります。この道程が往還道として残っています。その時の詠まれた一句が 東風吹けば 匂ひおこせよ 梅の花 主なしして 春を忘るな</p>    | <p><b>35</b> <b>上保田・菅田</b><br/>                 H30災害復旧 治山堰堤<br/>                 平成30年7月6日～7日の梅雨前線豪雨により黒瀬川南側山腹で未曾有の土石流が多発しました。この土石流のうち3カ所は決壊し、道路、家屋(浸水)が被災しました。この環境は、農水省所管の治山事業として施工(令和元年～2年)されました。</p>         |
| <p><b>3</b> <b>青木城跡</b> (大多田)<br/>                 標高462メートル貴構造は不明確であるが、大永2年(1523)西条の鶴山城失陥後、大内氏は楳山城(東広島市)をその代官の拠る城としたとしてそのルートの変更があったものと考えられる。この城跡は、楳山城に至る直線コースの「伝え城」のひとつで鼠は狼煙、夜は烽火を上げ本城へ急を知らせていた。その施設は、兵員の小屋程度で城として攻撃面の少ないのが特色で西亀崎衛所と伝えられています。</p> | <p><b>6</b> <b>真野本神社</b> (丸山)<br/>                 祭神：帯中津日子命、品陀和気命、息長帯白女命<br/>                 古くは真野本八幡神社とも呼ばれた丸山地区の鎮守です。正和5年(1316)の勧請と伝えられています。現在の本殿は平成10年(1998)に再建されたものです。</p> | <p><b>9</b> <b>平和神社</b> (丸山)<br/>                 もともと中黒瀬招魂社といひ、昭和10年に創祀され西南の役、日清、日露、大東亜戦争で没した141柱が祀られています。毎年11月23日に戦没者慰霊祭が執り行われています。</p>                         | <p><b>12</b> <b>蔵島神社</b> (楳原)<br/>                 祭神：市村島姫命、多岐郡姫命、多紀理姫命、品陀和気命<br/>                 楳原地区の鎮守で、正式は宝蔵太神社です。永享5年(1433)の勧請と伝わっています。江戸時代には上保田村、市飯田村、菅田村の3ヶ村の氏神として崇拝されていました。資料から寛政5年(1798)に現在地に移転したことが確認できます。現在の本殿は幕末頃に再建されたものです。拝殿には安永8年(1779)、寛政3年(1791)など4面の奉納祈願額が残されており、旧黒瀬町指定の重要文化財となっています。</p> | <p><b>15</b> <b>赤平神社</b> (楳原)<br/>                 祭神：帯中津日子命、息長帯白女命、品陀和気命<br/>                 兼広地区の鎮守で古くは赤平八幡神社と呼ばれていました。暦応3年(1340)の勧請と伝わっています。寛政10年(1798)に現在地に移転しました。それ以前は、黒瀬川沿いの街道に面した場所にあったようです。現在の本殿は、平成5年(1993)に再建されたものです。</p>     | <p><b>18</b> <b>宝蔵神社</b> (切田)<br/>                 祭神：帯中津日子命、息長帯白女命、品陀和気命<br/>                 切田地区の鎮守で、正式は宝蔵太神社です。永享5年(1433)の勧請と伝わっています。江戸時代には上保田村、市飯田村、菅田村の3ヶ村の氏神として崇拝されていました。資料から寛政5年(1798)に現在地に移転したことが確認できます。現在の本殿は幕末頃に再建されたものです。拝殿には安永8年(1779)、寛政3年(1791)など4面の奉納祈願額が残されており、旧黒瀬町指定の重要文化財となっています。</p> | <p><b>21</b> <b>三嶋神社</b> (菅田)<br/>                 祭神：大山津見神 下津姫神 上津姫神 伊弉諾尊(今の夏見屋)の三嶋社(別名 大山 尾神)からの勧請と伝えられています。江戸時代には上保田村、市飯田村、菅田村の3ヶ村の氏神として崇拝されていました。資料から寛政5年(1798)に現在地に移転したことが確認できます。現在の本殿は幕末頃に再建されたものです。拝殿には安永8年(1779)、寛政3年(1791)など4面の奉納祈願額が残されており、旧黒瀬町指定の重要文化財となっています。</p> | <p><b>24</b> <b>森山神社</b> (上保田)<br/>                 祭神：宇迦御魂神 大山津見神<br/>                 上保田地区の鎮守です。現在の本殿は明治後期から大正初期に建立(屋根根く。)されました。</p>  | <p><b>27</b> <b>専光庵跡</b> (市飯田)<br/>                 廃寺となった古寺跡と伝えられています。文政ごろ(19世紀初め)には、開山殿と呼ばれた小さな数がある。開山の僧の墓といわれる地蔵が残っています。</p>   | <p><b>30</b> <b>牛神社</b> (市飯田)<br/>                 100年ほど前に牛の疫病が流行し、それを鎮めるためと五穀豊穡を祈るために建立されたといわれています。上保田には万五郎の土流及び鳥居等があり石碑に大正14年4月寄付と記されています。</p>   | <p><b>33</b> <b>海老根城跡</b><br/>                 天文年間(1532～1554)、房田万五郎と名乗る人物があり、その城跡と伝えられています。上保田には万五郎のものと思われる古墓があります。</p>  | <p><b>36</b> <b>上保田</b><br/>                 H30災害復旧 治山堰堤<br/>                 平成30年7月6日～7日の梅雨前線豪雨により黒瀬川南側山腹で未曾有の土石流が多発しました。この土石流で下流の農地、道路、家屋(浸水)が被災しました。この環境は、農水省所管の治山事業として施工(令和元年～2年)されました。</p>                |



# 龍王の里なかぐるせ



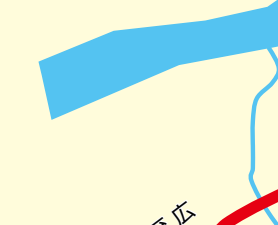
15 赤平神社 [C-2]



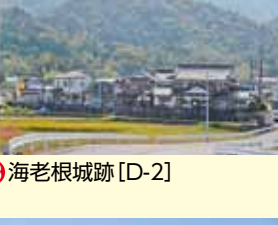
16 宝蔵神社 [C-1]



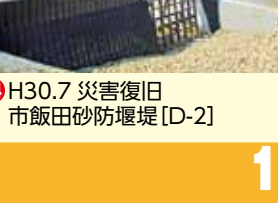
17 イボ宮様 [C-1]



20 天満神社 [C-2]



21 三嶋神社 [C-2]



22 中島梅葬の墓 [C-2]

23 石養山東光庵観音堂 [C-3]

25 お地藏様 [D-2]

27 専光庵跡 [D-1]

28 海老根神社 [D-2]

30 牛神神社 [D-2]

36 H30.7 災害復旧 菅田・上保田治山堰堤 [D-2]

35 H30.7 災害復旧 上保田治山堰堤 [D-3]

34 H30.7 災害復旧 市飯田砂防堰堤 [D-2]

29 海老根池竣工記念碑 [D-2]

33 海老根城跡 [D-2]

32 往還道(菅田) [C-3]

32 往還道(菅田付近)

32 往還道(菅原) [C-3]

32 往還道(道導)西福寺前 [C-3]

19 西福寺 [C-2]

18 観音堂 [C-2]

17 観音堂 [C-2]

16 観音堂 [C-2]

15 観音堂 [C-2]

14 西福寺 [C-2]

13 西福寺 [C-2]

12 西福寺 [C-2]

11 西福寺 [C-2]

10 西福寺 [C-2]

9 西福寺 [C-2]

8 西福寺 [C-2]

7 西福寺 [C-2]

6 西福寺 [C-2]

5 西福寺 [C-2]

4 西福寺 [C-2]

3 西福寺 [C-2]

2 西福寺 [C-2]

1 西福寺 [C-2]